

～ 1 月 29 日は『世界こども助け合いの日』です～
 テーマ：「コミュニケーション ～つながり育つこどもたち～」
 世界中のこどもたちの平和を願い、心と健康が守られますように。
 皆さまのお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。



CHECK IT OUT !

ミサのお知らせ

主日ミサ 1月29日、2月5日、12日、19日、26日(日) (8:30～)
 平日ミサ 2月2日、9日、16日、23日(木) (10:30～)

平日ミサは他教会のミサに参加できます。

主日ミサは引き続き所属教会のみの参加となります。

※今年の主日ミサは 8:30～です。ご注意ください。

※ベトナム語ミサ(15:30～)は毎月第 2 主日にあります。

高田教会の方ならどなたでも参加できます。

日本語のお説教、聖歌隊の歌があります。

ベトナム語ミサにも与ってみませんか。

奈良県下のコロナ感染者数は増加し、インフルエンザとの同時流行も懸念されています。
 高田教会では椅子を 2 人がけにしました。より一層緊張感を持って感染対策をしましょう。
 マスク着用、3 密の回避、手指消毒など 基本を徹底して下さい。
 聖堂でのおしゃべりは慎しみ、ミサ終了後はホールでの会話も控えて下さい。
 どうしても必要な場合は教会の外でお願いします。

京都司教区

* 大塚司教年頭書簡(教区時報1月号掲載)

「コロナ時代を生きる信仰 III わたしのシノダリティを創ろう」を分かち合い、感想文を
 150 文字内で2月中に教区、または高田教会評議員(役員)にお寄せください。

大和高田教会

* 今年の灰の水曜日は 2 月 22 日です。昨年の枝は 2 月 19 日までに教会ホールの箱にお入れ下さい。

* ウォークソン募金にご協力ありがとうございました。カンボジア子ども支援のために
 25,400 円を送りました。ホールのホワイトボードに領収書を貼っています。

* 典礼部より、本日ミサ後、聖具磨きをいたします。お時間のある方は協力をお願いします。

* 2023 年高田教会宣教司牧計画(案)を教会ホールホワイトボードに掲示しています。

1月中にご意見がございましたら、評議員(役員)までお知らせください。

1月29日 年間第四主日 マタイ5章1～12節 a 天の国はその人たちのものである

今日の福音はイエスの説教の場面です。これは「山の上に登られた」ということから、「山上の説教」あるいは「山上の垂訓」と呼ばれています（ルカの福音では逆に山を下りて話されたことになっています）。また、今日の箇所は「幸い」について八つの項目で書かれていることから、「真福八端」とも呼ばれてきました。

八つの幸いと呼ばれている人のあり方を見てみると、大きく二つに分かれます。第一のグループは世間で一般的に不幸だと考えられている人々です。「心の貧しい人々」「悲しむ人々」「義に飢え渴く人々」「義のために迫害される人々」の四つです。「心の貧しい人々」というと愛や情けのない冷たい人々のイメージがありますが、原文の意味は「霊において貧しい人々」で、心を満たされることを切望している人々のことである、と言ってもいいのではないのでしょうか。なお、ルカでは単に「貧しい人々」となっています。

第二のグループは正しいことを行う人々で、「柔和な人々」「憐れみ深い人々」「心の清い人々」「平和を実現する人々」です。第二のグループの人々が幸いだというのはわかりますが、第一のグループの人々について、普通は幸いとは言えません。悲しんでいる人に「あなたは幸いだ」と言っても慰めにもならないでしょう。

ではなぜイエスはそのような人々は幸いだと言われたのでしょうか。まず、実際にイエスの言葉を聞くために集まってきた人たちには貧しい人、罪びととされている人、異邦人、体の不自由な人や病気の人（彼らはさすがに山に登ることは難しかったでしょうが）が含まれていたと考えられます。ひょっとするとそのような人々が中心だったかもしれません。律法の規定を守れない彼・彼女らは神から遠い者とされ、宗教的にも社会的にも排除される存在でした。それは第一のグループの人々です。そのような人々にイエスは「あなたがたは「幸いである」と言われたのでした。

ではなぜ幸いなのでしょう。それは続く言葉に答えがあります。悲しむ人は慰められる。義に飢え渴く人は満たされる。それはだれによって？もちろん神によってです。それで教会はこの世で苦しくてもあの世で幸せになれる、と伝えてきました。貧しい人々が多かった時代にはせめてもの慰めだったかもしれませんが、一方ではこの世の不公平を放置してきた歴史があります。しかし、イエスの思いはもっと現実的なものだったでしょう。

そこで第二のグループの人々が必要となります。彼らはこの世に正義と平和を実現する人々です。第一のグループの人々のために働く人々であると言ってもいいでしょう。

八つの幸いの中に「天の国はその人たちのものである」という言葉が二回出てきます。「天の国」は死後の世界ではなく、この世の「神の国」のことです。つまり、「幸いな人々」とは、この世において神の国に招かれた人々、神の国の実現のために奉仕する人々のことなのです。

(柳本神父)